

令和元年度第1回仙台市泉区区民協働まちづくり事業評価委員会議事概要

日 時：令和元年5月28日（火）

13時45分～16時30分

会 場：泉区役所512会議室

出 席：岩動委員長、佐藤副委員長、真壁委員、田中委員、高橋委員

次 第：

- 1 開会
- 2 委員紹介
- 3 諸説明
- 4 平成30年度泉区区民協働企画事業報告

◇ 各事業内容報告

◇ 質疑応答、意見等

① ニューススポーツフェスティバル

（委員）

素晴らしい事業だと思っている。報告書にも記載されているが、グラウンドゴルフの人気の高いようなので、ぜひ導入を検討していただきたい。また、貸出用の用具の破損が多く修理費用がかかるとのことだが、利用者が修理するものではないのか。

（報告者）

利用者が壊した場合は修理して返却してもらうが、経年劣化による破損も多くなっている。

（委員）

老若男女の参加があるとのことだが、若い方の割合はどのくらいか。高齢化で、ということも書いておられたので、今後の担い手をどんなふうにお考えかなということも含めてお聞きしたい。

（報告者）

昨年度は、幼児・子供を含めて324名、大人が246名の参加があった。

（委員）

ニューススポーツフェスティバル159,000円はどのような内容の支出か。

（報告者）

参加者（子供）へのプレゼントの購入に充てている。以前は大人にも渡していたが参加者が増えたので現在は子供さんにのみお渡ししている。

（高橋委員）

会員の高齢化が課題とのことだが、今後、他の団体との提携などは考えているか。

（報告者）

実行委員会は、4つの団体を主として活動している。体育推進委員、学区体育振興会、スポーツ協会、レクリエーション協会。

どうしても、手っ取り早く高齢者に喜ばれるような内容で実施しているが、レクリエーション協会が、いろいろなニュースポーツを探してくれているので、お子さんも楽しめるようなものを積極的に取り入れていきたいと考えている。

(委員)

いろいろと制限があるかもしれないが、子供と多くかかわっている団体と組むことによって、目的にもある親子対話にもつながっていくと思いますので、ぜひ検討していただければと思う。

② 泉区民文化祭

(委員)

プロジェクションマッピングを行ったとのことだが、お金がかかるというイメージがあるが、大学生が全て負担したのか。

(報告者)

そうです。こちらでは費用はだしていません。

(委員)

財源運営費のうち、茶席運営費とあるがお茶券は利用者から200円徴収していると聞いている。

(報告者)

会員には予約券を渡すほか、当日券を100枚準備している。すべて収益のみで運営している。

(委員)

そうすると、この運営費はどのような使い道なのか。

(報告者)

それは収入に入っている。予約券（前売り券）の収益のみで運営している。

(委員)

会場使用料、音響照明委託は、全てイズミティ21に支払ったものか。音響照明を別業者に委託したものか。

(報告者)

すべてイズミティ21に支払ったもの。

③ 将監沼ふれあい事業

(委員)

若者の参加をどうつなぐかというのは、どこでも抱えている課題だと思うが、将監は結構人口が多い方だと思うが時間をかけて子供たちとの連携をすすめて築き上げてき

たのかなと思うんですけど、若者たちは一回外に出て行ってしまいますよね。今考えておられる若者の参加という「若者」というのはどういう方たちを指しておられますか。

(説明者)

将監団地にずっと住んでらっしゃる方というのは高齢なんですけど、今、将監の一軒家を売って（敷地が広いので）2軒の戸建てを建てて売っております。また商業施設の跡地に約4～50軒売り出していますが、そこに引っ越してこられた方たちの参加は難しいと思っております。活動はボランティアですので、皆さんお仕事していらっしゃるし、土日は家族サービスということで、なかなか参加は難しいかなと思います。

よく、小学校に行った時に「僕たちにできることは何ですか？」という質問を受けるんです。なので「おうちに帰ったら、お父さん、お母さんに、1回でもいいから草刈りに来てねって言ってね」って言うんですけど（笑）なかなか難しいかな、と思います。

④ いずみ朝市

(委員)

昨年に比べると入場者数が400人くらい増えているが、何か工夫をするなど増える要因があったのか。

(説明者)

入場者数というか、野菜券の回収が増えている。野菜券の回収が増える要因としては、野菜の値段が高くなった時ということが言える。豊作で値段が安いときは朝市の集客も減る傾向がある。

(委員)

HPやFacebookなどのSNSを見て来場した方はどのくらいいるのか。

(説明者)

以前は高齢者が多かったが、最近は若い方の来場は増えている。これはSNSによるPRの成果だと考えている。

(委員)

もし、アンケートを取ることができるなら、集客増が、SNSによるものなのか、チラシを増やしたことによるのか検証してみるとよい。

⑤ 泉ヶ岳利活用推進市民会議

(委員)

課題と展望のところで拝見するとどちらかというと専門家目線とか行政目線という観点から書かれているんですけど住民参加によるまちづくりという観点からの課題というものはどのようなものがあるか。十分に成果が出ているという解釈でよいか。

(説明者)

その点からいえば成果は出ていると考えている。

(委員)

平成 29 年度に比べて 20 万円ほど助成金が増えているが、平成 30 年度が適正なのか。

(説明者)

29 年度のみ減額になったので 30 年度は元に戻った形。今後も減額は厳しい。

(副委員)

芳の平の桜のところに遊歩道を造成したとあるが、どのあたりか。先日、桜が満開の時期に通るかかったら、複数の家族が桜の下に座ってお花見をしていた。

(説明者)

泉ヶ岳方面に進んで、シェルターを越えたところ。ここ数年開花状況が芳しくなかったが、今年は綺麗に咲いた。

⑥ 泉中央美化推進事業

(委員)

参加者がかなり多くて、とても良いことだと思う。どのような方が参加されているのか

(説明者)

まず、地域の事業所（参加の案内は 100 事業所に送付している）、町内会、小学校、子供会育成会、仙台商業高校などが参加している。

(委員)

以前は、泉区内全ての町内会に参加の案内が来ていたが、ある時期から地域が限定されているようだ。それは今後も変わらないのか。

(説明者)

案内は泉中央地区に限定している。事業所については参加の申し出があれば泉中央地区以外でも参加していただいている。

(委員)

私も毎回参加させていただいている。参加者側からの意見として、ごみが思ったよりもなく、みんなでごみを取り合うような感じなんですけど、エリアを広げるとかいう考えはあるか。

(説明者)

先ほどの泉中央地区以外への案内についての質問にも言えることだが、例えば泉区内の全町内会に案内すると、必ず各町内会 2～3 人以上の参加してくれるため、参加人数が膨大になる。その人数をどうエリア分けするかという問題が出てくる。また参加者用として区役所の駐車場を開放しているが、駐車台数にも限りがあり、参加対象を広げることは難しい。

ゴミが少ないのは、このような美化活動を継続して行ってきたことで、ごみを減らそうという意識が定着してきたと考えている。

⑦ 泉ヶ岳悠・遊フェスティバル

(委員)

警備はプロの警備員に委託しているのか。渋滞の対応としても警備は必須であり、警備スタッフを減らさないほうがよいのではないか。

(説明者)

はい。貴重なご意見ありがとうございます。

⑧ 七北田川クリーン運動

(委員)

自然と触れ合う大変いい機会だと思う。事故に関する危機管理として、参加者への傷害保険には加入しているか。また、保険料は自然観察会の費用に含まれているのか。

(説明者)

イベントごとに傷害保険に加入している。保険料も事業費から支出している。自然観察会はいかだ下りで川に入るため、一斉清掃よりは保険料が高くなっている。

(委員)

伊藤園やミヤテレから協賛をもらっているということだが、割合的にはどのくらいか。

(説明者)

伊藤園さんからは、参加者に配布するお茶を 1,600 人分提供していただいている。宮城テレビ放送さんからは、アユ放流会の稚魚 50 kg (約 5000 匹) を提供していただいている。

⑨ 泉区民ふるさとまつり

(委員)

課題に人員不足、イベントのマンネリ化、開催経費の高騰に相応する収入が確保できず事業規模の縮小等も視野に入れてとあるが、これについては何か対策があるか。皆さんが楽しみにしているイベントなので、お金がないことには何もできないのはわかるが、縮小といわず、何とか頑張って継続して行ってほしい。

(説明者)

この何年かは、イベントの規模について何とか現状維持で頑張ってきているということで、今回で 39 回目を迎えるわけですが、何とか例年通りの規模で開催できるように努めていく。

(委員)

もっと早い時期から募金を開始するなど、何とか工夫してやっていってほしいと思う。

(委員)

資金不足ということでクラウドファンディングを取り入れたとのことですが、集まり具合はどんな感じだったのでしょうか。

(説明者)

平成 30 年度から始めて取り入れて、約 8 万円、ここから事務経費を差し引くことになり
ますので実際にはもう少し下回った額になる。

⑩ いずみのふるさと学事業

(委員)

サポーター会は現在何名くらい在籍しているのか。また平均年齢はどのくらいか。

(説明者)

現在新規加入者を含めて 17 名、平均年齢は 70 代後半。新たに加入された方で 50 代後半
から 60 代の方もいますが、研修会の参加者も退職されて時間に余裕がある方が中心になり
ますので。

(委員)

探訪会の参加者はどのような年齢層か。

(説明者)

60～70 代が中心。

(委員)

どのあたりの年代をターゲットにするかによって、内容の変更も必要になってくるのか
なと思う。どうしても若い世代からすると刺激がないとなかなか難しいと思うんですが、対
象者をどこにするかによって内容の見直しが必要となると思いますのでよろしくお願いし
ます。

⑪ 区民意識普及啓発事業

(委員)

難しい事業だと思ってお聞きしていたのですが、区に愛着を持っていただくというのと、
この区民憲章をリンクさせるというのは難しいと思いながらお聞きしていた。提案だが、見
直しということも視野に入れながら、よりわかりやすく愛着をもっていただくのにふさわ
しい憲章ということも考えになったりしていますか？

(説明者)

区民憲章は、そもそも泉市民憲章ということで制定されたもので、仙台市と合併した際
にも、廃止をするではなく泉区民憲章としてここまでつないできたものである。その当時から
泉区は住民の方たちの自発的なまちづくりへの取り組みが非常に活発で、それはこの憲章
がベースになっている、区民憲章というものを知らなくても、自分たちが住んでいるまちを
自分たちの手でよりよくしていくという行動のベース、理念がこの憲章文に集約されている
ものと考えている。当時からの住民の皆さんの想いもあり、廃止ということはなかなか考え
にくい、今の時代に合わせた見直しについては、全国市民憲章推進協議会の動向を捉えな
がら、まちづくり推進協議会の役員の方々と見直しについて検討していきたい。

幼少期からの普及啓発が有効と思うが、仙台市民憲章であれば、小中学校と連携した取り

組みも可能だが泉区単独ではそれも難しい。泉区での様々な楽しいイベントを企画しながら、憲章文はわからなくても泉区を自分たちで作っていくという意識をもってもらうことが大切だと考えている。

⑫ 青少年健全育成事業

(委員)

財源経費のところで地球のステージに係る費用の内訳はどのようなものか。

(説明者)

地球のステージは、演者への謝礼・交通費が主な支出となる。

(委員)

関連して、少年の主張泉区大会に係る費用の内訳はどのようなものか。

(説明者)

入賞した生徒への記念品や、作品集の印刷代が主な支出となる。

(委員)

地球のステージというのはどのような内容か。

(説明者)

講師の先生が、ソマリアなど難民の様子を収録してきた映像に合わせて、弾き語りで映像の内容に合わせて歌うというものです。生徒たちは、難民の貧しい中でも懸命に生きる姿に感じるものがあるようで、涙を流して見ている。

(委員)

地球のステージは、青少年健全育成事業の目的のどの部分に該当するものか。

(説明者)

世界で起きていること、貧困や戦争について肌で感じることで、日本国内だけではなくもっと広い視野と価値観を持ってもらう、ということでしょうか。

(委員)

ずっと長く続いている事業であって、地球のステージ自体はいいと思うが、これありきではなくて、本当に目的につながっているのかどうか、他にアプローチがないかどうか検討していくことも必要ではないかと思う。

(説明者)

講師のスケジュールの確保が1年前なので、見直しのタイミングが難しいところ。

⑬ 子育て交流会

(委員)

フェスティバルですが、一般の方向けにはどのように広報されていますか。

(説明者)

ポスターを作成し、泉区内をはじめ、地下鉄の通路の掲示板や、できるだけ市民の方の目

に触れる場所を選んで掲示しているほか、各参加団体も、接点のある子育て中のご家族にチラシをお渡しするなどPRに努めている。

(委員)

会場が、七北田公園体育館ということで、一般の方が行くには少しわかりにくいという印象がある。今後可能なら、泉中央駅前とか、一般の方の目に留まるような場所で開催してみてもどうか。

(委員)

親子フェスティバルを平日に開催する理由は何か。

(説明者)

事務局として大きな位置を占めていただいているのが泉区家庭健康課の方々、また応援いただいている保育士の方々も業務の一環として携わっていただいているので、休日出勤をお願いすることが難しい現状があります。

⑭ いずみ絆プロジェクト

(委員)

すごくもったいないのが、せっかくあるこの大学のプロジェクトがなかなかプロジェクトとして直接関わる機会がまだ欲しいかなと思う。プロジェクトを通して直接地元と大学生が絡む取り組みとか、各団体がもっと協力を依頼しやすいシステムがあれば、もっと広がるのではないかなと思う。

⑮ 大学・地域連携による課題解決事業

(委員)

ウォーキングマップを作成して全世帯に配布したとあるが、どのような方法で配布したのか。

(説明者)

町内会を通じて全戸に配布した。

(田中委員)

では、ウォーキングマップ作成費用に配付費用は含まれないということでしょうか。

(説明者)

含まれていない。

(委員)

要望としては、5年上限の助成期間中に、パソコンやスマホの講座を開くのはいいと思うが、操作方法を教わって終わりというのではなく、インストラクターを養成することによって、助成期間終了後もずっと、地域に詳しい人が何人もいるという形が望ましいと思うので、指導できるひとを養成するというのがよろしいかと思う。

(説明者)

ウォーキングマップの作成にあたり、パソコン講座の受講者にも参加してもらった。参加者が担い手にステップアップするような形を協議会でも考えている。

⑩ 泉中央地区活性化推進事業

(委員)

予算の内訳はどうなっているか。

(説明者)

一番大きく費用としてかかっているところは、チラシやポスター制作の広報費として約 25 万円、会場設営費として約 20 万円、企画の中でバルーンを使用したフォトスポットなどの会場装飾費に約 45 万円、その他司会やスタッフ等に係る運営費が主な支出項目となっている。

(委員)

実行委員会の構成団体、いわゆる身内への謝礼は発生しているか。

(説明者)

司会は、吉本興業の農場に住みます芸人の方をお願いしましたので、実行委員会のメンバーとは別になる。

(委員)

事業内容・手段の項目に、「商工団体、地域団体、事業者、行政等の連携協力により開催する」とありまして、成果・達成度のところには「関係者の役割分担を明確にしたことにより賑わいと集客効果のあるイベントに向けて関係者が知恵を出し合い、役割分担をしながら取り組む状況が見られた」とあるが、具体的にはどのような役割分担がなされたのか。

(説明者)

今回は、アリオさん、セルバさん、泉中央地区の飲食店の方たちが積極的に参加してくださって、企画、協賛を取ってくる班、広報など得意分野に分かれてイベントを実行した。例えばベガルタ仙台さんにはホームゲームでハロウィンの PR を画面で流していただいたり、セルバさんでも店舗内で広報していただいたりとか、商工会さんを通じていろいろな企業さんから協賛をいただくことができたりと、今までのお祭りとは違った形で進めることができたので、とてもよかったと思う。

(委員)

だいふ、良い方向に動いたということが感じられますね。

(委員総括)

泉区を舞台として熱心なしかも真摯な活動を展開されているということで、16 の事業すべてに感心いたしました。

おまつりやフェスティバル等のイベントに関するものがみたところ 6 件、将監沼ふれあい事業も含め地域整備活動も、ちょうど 6 件くらいですね。そして、それ以外に学習事業な

どをその他に分類すると4件、全部で16件なのですが、要するにイベント活動と地域整備活動が非常に盛んであるというようなこと。これはどちらも大切なことだと思う。そういう意味では、バランスの取れた事業展開をしていると感じた。

中でも、課題が多く高齢化が進んで担い手がないという朝市の事例とか、これも大きな課題です。一方でいずちゅう祭からハロウィンに少し衣替えをして中身もかなりの部分で産業連携、あるいは地域団体との連携、それが非常にうまく推進したという事例もみられましたので、これなんかは今後の展開に多くの示唆を含んでいると思いますので、今までは若者を生かすということで大学というものにしてきましたが、そればかりではなく産業界の団体さんとコラボするというようなことも、今後は積極的に、特にイベント開催に向けての事業の場合には必要であるのかなと思った。もちろん、地域整備活動にも伊藤園だとかテレビ局が協賛してくれるという事例も、とてもいいことだと感じた。その点を申し上げて締めくくらせていただく。

5 閉会